

- 15 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意をし、球を投手に戻させる。
- 16 突発事故が起きた場合に、一時走者を代えたいときは球審に申し出て、審判団が必要と認めた場合はこれを許可する。臨時代走は、投手を除く打者前位の者とする。
- 17 試合進行上、打者席を外したり、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディな試合進行を心掛ける。ボール回しは、試合の進行上禁止することがある。
- 18 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。
- 19 危険防止のために次のことを徹底する。

- ① バットリング、鉄棒等の球場内への持込を禁止する。
- ② 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトにする。
- ③ 捕手のレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・ファウルカップと打者と走者及びシートノック時にノッカーにボールを渡す生徒の両耳付きヘルメットを着用すること。ベースコーチとバットボーイは危険防止のためにヘルメットを着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。

- 20 「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。

[規則適用上の解釈]

中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。

- 21 交代して一度退いた選手はウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。
- 22 タイムに関しては公認野球規則による。ただし、捕手または内野手の1人が投手の所へ行く場合は、回数に入れられない。
- 23 塁上の走者、およびコーチボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。
- 24 規定のイニングを終了後、次のような特別延長戦を行う。
ただし、準決勝・決勝は、通常の延長戦を9回まで行い、10回より特別延長戦を行う。

<特別延長戦>

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合はさらに継続打順でこれを繰り返す。なお通常の延長戦と同様に規則によって認められる選手の交代は許される。

- 25 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの監督が責任を持って指導すること。
 - ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
 - ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。
(特に相手投手が投球動作に入った場合については過度な声援はやめる。)
 - ③ 応援席周辺を散らかさない。ごみは持ち帰る。
 - ④ 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害するような応援はしない。

【試合後】

- 26 試合終了の挨拶は、ホームプレートをはさんで全て完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。
- 27 各チームの監督は、球場を去る前(試合終了30分以内)に大会本部に連絡をし、次の日程などを確認する。

【その他】

- 28 ベンチに入る教員は平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツおよび選手と同一の野球帽子)または、選手と同一のユニフォームとする。また、コーチを兼ねる場合には、選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用し背番号を付ける。ただし、女性の場合は考慮する。(サングラスは使用しない)
- 29 監督・外部指導者(コーチ)は選手と同一のユニホーム・スパイクを着用する。(サングラスは使用しない。)
- 30 選手のテーピングは肌色に近い色のものを用い、投手は投球に影響の与えるものは使用できない。
- 31 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしくマナーについては十分に考慮する。
- 32 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。
- 33 後攻チームがロージンバックを先に出し、マウンドに置く。

4 使用球及び使用器具

- (1) 使用球は、(公財)日本中学校体育連盟公認球**M号球**とする。
- (2) その他の使用器具は、(公財)全日本軟式野球連盟公認のものとする。